

婦中大橋有料道路

(平成7年5月1日無料開放)

建設の経緯

一般国道359号は、富山市から砺波地方を結び石川県金沢市に通じる広域的幹線道路であると同時に、富山市周辺地域においては、富山市の中心市街地と周辺地域を連絡する都市内幹線道路でもある。

富山市街地及びその周辺での都市化の進展に伴う交通需要の増大により、富山婦中バイパスの整備が急務となり、神通川橋梁区間については有料道路事業の活用により、本県で初めての有料道路橋（L=0.7km）

として整備することで早期建設を図ることとした。

建設工事は、有料道路事業費10億円で昭和61年7月に始まり、昭和62年7月に完成、同年8月3日に2車線で供用を開始した。なお、関連公共事業として、昭和56年6月から昭和62年5月まで有料区間0.7kmを含む延長1.3kmにおいて33億円が投資されている。

なお、利用交通量が伸び、平成7年5月1日に無料開放された。

通行料金

(単位:円)

車 種	普通車	大型車 (I)	大型車 (II)	軽車両等
料金の額	100	160	360	10

(料金徴収期間:平成7年4月30日まで)



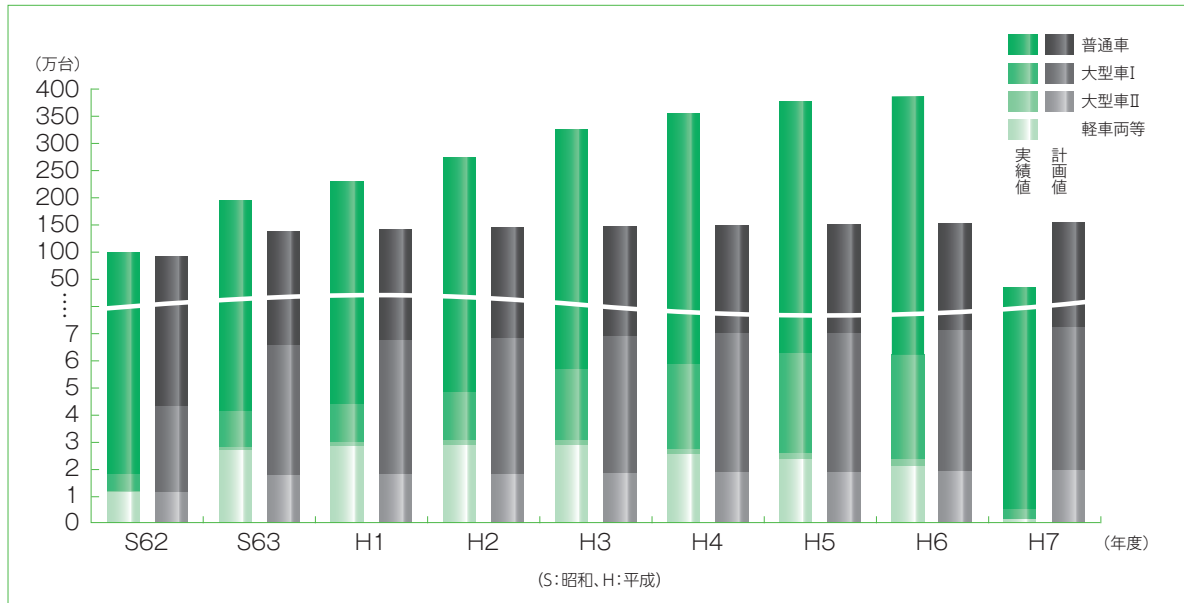
開通直後の婦中大橋有料道路周辺 (昭和62年10月撮影)



市街化が進む婦中大橋周辺 (平成12年4月撮影)

道は ひとを結び
道は ときを駆け
道は まちを繋ぐ

通行実績



※平成7年度の実績は、4月30日まで

早期の無料開放

営業開始以来、計画を大幅に上回る利用交通量の伸びにより、建設費の償還が極めて順調に進み、当初の計画（平成29年8月）より早く、8年9か月が経過した平成7年5月1日に無料開放された。



開通直後の婦中大橋有料道路

4車線化になった現在の婦中大橋

